

地球惑星科学委員会地球・人間圏分科会（第26回・第4回） 議事要旨

開催日時 2025年1月15日（水）10:00-11:30

開催場所 日本学術会議及び遠隔会議（ZOOM）

出席者 沖 大幹、小口 高、佐竹 健治、矢野 桂司、井田 仁康、伊藤 香織、奥村 晃史、
小野 裕一、片岡 香子、川東 正幸、齋藤 文紀、鈴木 康弘、谷口 真人、張 勁、
橋本 禅、見延 庄士郎、谷田貝 亜紀代、山田 育穂、山野 博哉、由井 義通、
吉田 丈人、若林 芳樹

欠席者 飯島 慈裕、石川 徹、植松 光夫、臼田 裕一郎、木村 園子 ドロテア、
久保 純子、齊藤 宏明、長谷部 徳子、平田 直、山本 佳世子

議題等

(1)公開シンポジウムの運営について

今期計画されている3件のシンポジウムについて、検討・準備状況の報告があった。

- ・「阪神淡路大震災30年：その後の日本社会をいかに変えたか」（2025年1月15日開催）について、鈴木委員から報告があり、分科会終了後の午後の開催に向けて参加・協力の呼び掛けがあった。
- ・Nature-based solutions に関するシンポジウムの検討状況について、山野委員から報告があり、2025年11月～12月頃の開催を検討していること、未来の学術構想や SIPグリーンインフラ課題とも連動して検討を進めていることが確認された。
- ・社会水文学に関するシンポジウムの検討状況について、沖委員から報告があり、2025年7月19日～21日に国際水文科学会の後援を得て東京大学本郷キャンパスで開催される International Socio-Hydrology Conference と連動して、カンファレンス開催の3日間のうちのいずれかの日に開催する予定であることが確認された。

(2)今後の活動について

① 意思の表出について

小口委員長から、日本学術会議から示された今期の意思の表出のスケジュールについて報告があり、提言または見解を表出するには2025年1月中に申出書を提出することになっているという説明があった。このタイミングでは、地球・人間圏分科会単独での申出書は提出しないことが確認された。

佐竹委員、小野委員から、土木工学・建築学委員会 IRDR 分科会が「壊滅的被害が想定されるメガシティの防災力強化に向けた科学技術イノベーション」に関する意思の表出を準備しているという情報提供があった。それを受けて、鈴木委員等から、地球・人間圏分科会で実施する「阪神淡路大震災30年」シンポジウムの成果を踏まえて協力することでIRDR分科会と地球・人間圏分科会の合同で意思の表出ができないかという意見が出された。審議の結果、IRDR分科会の承諾が得られれば、合同で意思の表出をする方針が承認された。

② フォーラムについて

小口委員長から、日本学術会議主催学術フォーラム企画案募集について、学術フォーラムの特徴や四半期ごとに募集があり約半年前までに申し込む必要があるという説明があった。現在計画中のシンポジウムを学術フォーラムに変更する可能性が審議され、2025年7月開催予定の社会水文学に関するシンポジウムはシンポジウムとして開催すること、2025年11月～12月に開催予定の Nature-based solutions に関するシンポジウムは学術フォーラムとしての開催や他の分科会との共同開催を検討することが確認された。

(3)その他

新任委員の橋本禪委員と吉田丈人委員から自己紹介があった。

IRDR分科会委員長の寶連携会員を今期の地球・人間圏分科会の委員として追加することについて、本人の承諾が得られた後、本分科会に参画頂くことが承認された。

奥村委員から、1月23日～25日にオンライン開催される「Hokudan 2025: International Symposium on Active Faulting」について情報提供があった。

以上.